

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(2号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kanistrue&amp;lievosv0d=2276400071-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kanistrue&amp;lievosv0d=2276400071-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 モア設備設計事務所
所在地	静岡市葵区昭府1丁目8番35号ツキチ商事ビル4F
訪問調査日	平成25年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2001年開設の地域では老舗のグループホーム。日当たりの良い丘の斜面、広い敷地の中に各ユニットが独立した平屋の建物になっている。</p> <p>隣接して同法人経営の老人保健施設があり、医療面・運営面で協力関係にある。施設の夏祭りには数年前より地域の子供会、老人会が参加、100人を超す人が訪れる。運営推進会議にも地域の老人会の方が参加し地域との関係も深まっている。</p> <p>リビングルームはとても明るい。老若のバランスがとれた職員の年齢構成。笑顔の丁寧な対応で落ち着いた明るい雰囲気が漂う。食材は3ユニット共通のものが業者から提供されるが、時には入居者の好みなどに合わせ、各ユニットごとにメニューを変更し調理している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの介護で笑顔がいっぱいの家」を理念のもとに、一人一人に向き合って笑顔が引き出せるようにしています。	理念は掲示だけでなく、実際にも笑顔で入居者に接することが実践できていたので、意識されているが、口からスラスラ出てくるほどにはなっていない。	声に出して理念を確認する機会を設けるなど、より浸透する方策が講じられることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りでは子供会や老人会を招待して行っています。また地元中学生の職業体験を受け入れています。近所の畑に花を見に行ったりボランティアの方と畑を一緒にやって交流をしています。	敷地内の畑の世話を地域の方がしてくれたり、同一法人経営のケアセンターとの夏祭りに地域の子どもや老人が多数参加している他、中学生のボランティア体験や地区のそば祭りに入居者も参加するなど、付き合いは深まりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りで子供会や老人会の方、地元の中学生と交流することで理解してもらえるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月ごとに開催しています。毎回行事等をスライドショーにしてテレビ画面で見ただき活動報告をしています。	2ヶ月に1度開催され、地域の自治会だけでなく老人会の方の参加もある。ノロ予防に関する知識や施設側のイベント情報の提供もされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の来設が年に2度ありました。また運営推進会議には包括の職員が毎回出席して下り、相談等にのっていただいています。	地域包括とは運営推進会議など連絡連携を取る基盤が築かれているが、市担当者との関係はまだ浅い。	市の担当課の職員に運営推進会議に参加してもらうなど、関係を深めていくことを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は拘束はしていません。身体拘束もしていません。	玄関は自動ドアで日中は自由に入出りできる。建物のガラス窓の開口部から敷地内が見渡せ、他のユニットの利用者も見守りが行き届く環境になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で言葉による虐待を含め、勉強し、言葉使いにも気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学び理解していますが、新入職の職員もいますので再度勉強会をしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更前には必ず電話で説明し、理解して頂き納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時やケアプラン作成時には入居者様やご家族様に意見や要望を聞いています。「入居者様本位」と言うケアの原点を常に考えています。	遠方の方を除き、家族への請求書は施設での手渡しとなっているため、その機会を通じての直接対話が大きな役割を果たしている。また運営推進会議への参加もあり、意見を反映させる体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催しており、事務長に参加してもらい職員の意見、情報の共有化を図っています。	月1回第3金曜日に職員会議を開催し、入居者の状況を共有、また職員から出た意見提案などは活かすようにしている。欠席者には会議録などを回して情報の共有をはかっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を持つことにより給与にも反映され、職場環境・条件の整備の努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会では職員一人一人が講師となり自己研さんに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員会議に他館の館長の出席を求めて、他館の情報を得てサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問しご本人、ご家族様の意向を聞き出せるように努めています。また入所後も不安がないように本人の意見に耳を傾けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の困っている事、不安なことを聞き出し少しでも不安が解消できるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活スタイルを聞き出し、出来る限りご本人が望む生活ができるように心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはご自分でやっていただき、できないことを一緒に手伝ってやり遂げるという関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の報告書を送付しています。来設時にもご本人の思いを伝えるようにし、話す機会を作り、ご家族様も含めた支援ができるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月馴染みの美容院やマッサージに行ったり、通いなれた病院へ、ご家族の協力のもと行っています。	馴染みの方などからの手紙があった場合は返事を出すよう勧めサポートしている。家族の協力も得て、馴染みの美容院、お墓参りなど関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにすることで連帯感が生まれ、入居者様同士がお互いに声かけして、支えあっています。職員はその様子を見て必要があれば声掛け等しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の施設に入所された方などは、近くまで行けば、会いに行ったり、声をかけたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月毎モニタリングで聞き出したり、困難な場合は日々の言動で把握するように努め、検討しています。	希望や意向をはっきり示す方は極力それに応えるようにしている。意志を示すのが難しい方は、家族からの情報や日頃の観察結果を参考に意向を推測して応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の中から話をしいき情報収集しています。職員全員が周知できるように記録を残しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の様子をカルテや介護記録に記入し現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時やモニタリング時は、再度現状把握に努め、その時に合ったプランに変更しています。	家族がより正確に把握できるように、入居者の現在の様子や状態について伝え、その上でこうして行きたいとケアプランについて説明、家族・職員がひとつになって作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者様のその日の心理状態、健康状態、気づいたこと等を介護経過に記入し、介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	退院後にはモニタリングをしその時に生じるニーズに対応できるようにサービスを変えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の敬老会に参加できるように支援したり、行事に作品を出品したりして参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診があり緊急時に対応しています。入所前からのかかりつけ医に受診している入居者様もあり、納得がいく医療が受けられるように支援しています。	月1回協力医の往診があるが、全体で3分の1強の入居者が家族の協力もえて、以前からのかかりつけ医に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の巡回があり、入居者様自ら質問したり、日ごろの様子や変化、気づき等を伝え相談支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはケア要約を送り、確認していただいています。定期的に訪問し病院関係者との関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	なるべく早いうちからご家族様と今後のことを話し合い、併設施設と連携し支援しています。	看護師がいないので、入居時に家族にはできることを話し、重度化した場合は隣接する同一法人の老人保健施設でのケアへの移行の態勢などがあることを説明し、看取りは基本行っていない。	看取りの希望があった場合どのような態勢で臨むか、検討していくことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を受け、その後変更になったところを再度勉強会に取り上げ全職員に周知しています。その後の入職職員には今後の勉強会で勉強していきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定しての避難訓練を年2回、また随時、事前周知なしの訓練を行っています。	避難のために敷地内の段差もスロープにして解消した。隣接する老人保健施設と連携した避難訓練を年2回実施、地域の防災訓練にも参加し、各ユニットまで地域の方が安否確認にくる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを守りながら、ご本人の自尊心を傷つける事の無いように配慮した声掛けをするように気をつけています。	意志のはっきりしている方には希望の呼び方で接するようにし、丁寧な言葉づかいを心がけている。施錠されている居室の夜間の巡回時には、解錠することを事前に入居者・家族の了解を得て入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定し思いをかなえるために、ご家族様に協力して頂いたり思いや希望を言うことが難しい入居者様に対しては、態度や行動で把握できるように声掛けの支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースを大切に、行事のある時は、ご本人の希望に沿うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、着替えが難しい人に対しては、声掛けしながら本人の希望に沿うように支援しています。自己表現ができる方は其の方の意思に任せています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時には昔作った料理や、好みの料理などの話をしながら、かかわっていただいています。食材は取り寄せ各ユニット共通ですが、調理方法は入居者様に合わせています。	業者提供の食材だけでなく、畑でとれた大根やエンドウ、自家製手製の切り干し大根なども使用している。夏祭り、イベント時ならではのメニューもある。準備、片付けのできる入居者には役割を固定しないために輪番制で食器拭きを担当してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週2回の体重測定により体重を把握し、食事量や水分量のチェックをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる入居者様には1日3回やっただきます。介助の必要な方は夕食後の歯磨きと入れ歯の洗浄を介助しながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	5人が布パンツで生活されています。ときどき失敗もありますが、その他の入居者様はチェック表で誘導しトイレで排泄できるように支援しています。	トイレで排泄できるよう、日中は個々の利用者に合わせてさりげなく声掛けや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が少なくならないように声掛けして、飲んでいただいたり、体操等取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はその人その人に合わせ、十分くつろげるようにしています。入浴を楽しめるように冬場はみかんの皮を入浴剤にし香りも楽しんでいます。	火、木、土の週3日午後2時から4時前までの時間帯で入浴を実施している。それ以外でも希望があれば入浴できる。入浴があまり好きでない入居者には清拭で対応している。また職員手作りのみかんの入浴剤で少しでも入浴を楽しんでもらおうと工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の健康状態によって昼間も臥床したり、適度の散歩や運動をして眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の内容を理解し、誤嚥の無いように内服見守りし、常に様子の変化に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に合わせてできるお手伝いをやっていたり、月1回のレクリエーションで気分転換し、楽しく過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く、体調が良い日はなるべく戸外に出ています。近所のお花畑を見に行ったり、地域の行事に参加しています。ご家族様の協力のもと週1~2回気分転換に外出している入居者様もいます。	天候が良い日は体操の後、敷地や近所を散歩している。買い物は隣接の保健施設の売店やショッピングセンターにも月一回職員が付き添い車で出かけている。季節には太田川の河原での花見や小国神社への紅葉狩りや海岸にケアセンターのマイクロバスなどを使って出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを預かり、必要に応じて買い物支援しています。ご自分でお金を所持し、買物を依頼してくる入居者様もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀はがきが届いた入居者様もあり返事を書くように支援しています。ご本人の希望があれば電話をかけたります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃をして清潔を保っています。季節がわかるように行事をしたり掲示物を作成しています。食事時は和やかな雰囲気の中で過ごせるように、テレビは消します。	キッチンと一体となったりリビングは大きな窓が3面にあり、とても明るい。入居者の作品や季節の飾り物なども、派手過ぎない程度に飾られている。外壁の色も壁紙も各ユニットごとに異なり、特に壁紙は明るくやさしい色使いのものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の椅子を持ち込んでお気に入りの場所で腰掛けていただいています。一人になりたいときは居室に行き過ごしていただき、職員が時々様子をうかがっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までのご自分の部屋と同じよう心地よく過ごせるように、馴染みのものを持ってきていただき工夫しています。	それぞれの居室は、自分の作品やご家族の写真などさまざまで、仏壇のある部屋もあり、入居者各々の趣味や暮らしぶりが感じられる。掃除も行き届いていてとても清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下からホールには手すりが設置しており、すべてバリアフリーになっています。なるべく自分の足で歩いていただくように、手すりや押し車を使って歩行していただいています。		